

2021年12月28日

一宮教会評議員の皆さま

シノドスの準備

+ クリスマスおめでとうございます。

一宮教会では、待降節第一主日にわたしが黙想会でシノドスの質問書について説明をしました。質問内容は多岐にわたりますので、松浦司教は質問のテーマを「ともに歩む教会のため――交わり、参加、そして宣教」に限定して、四つの設問を提示しました。

12月26日に行われた常任委員会では1月9日の評議員会でシノドスの質問内容についての分かちあいをすることになりました。四つの質問すべてを討議することは短い時間では無理なので、私がその一つだけを皆さんにお示しするよう要請されました。

そこで、以下の四つの質問の四番目を討議内容としたいと思います。問題は誰でも提起できますが、その解決策を模索しなければ、これからの一宮教会の方向性も見えてこないと思うからです。

1. 私(たち)は“共に歩んでいる”と感じたこと、体験したことがありますか？ 教会では……、社会の中では……。
2. 共に歩むために大切なことは何ですか？また、共に歩むことを妨げることは何だと思えますか？
3. 私(教会)が共に歩んでこられなかった（こなかった）人々がいますか？ なぜ、共に歩むことができなかったのでしょうか。
4. これから共に歩む教会になるために何が大切でどうすれば良いと思えますか？ 教会の中に共に歩むための力になる良いものがありますか？

「これから共に歩む一宮教会になるために何が大切でどうすれば良いと思えますか？ 一宮教会の中に共に歩むための力になる良いものがありますか？」

抽象的な話ではなく、いま一宮教会のメンバーが直面している問題にたいする具体的な提案を分かち合えたら良いと思えます。

名古屋教区の締め切りは5月9日までです。評議員会だけでなくHPにも掲載し、幅広い意見を集約できればと思います。

太田実